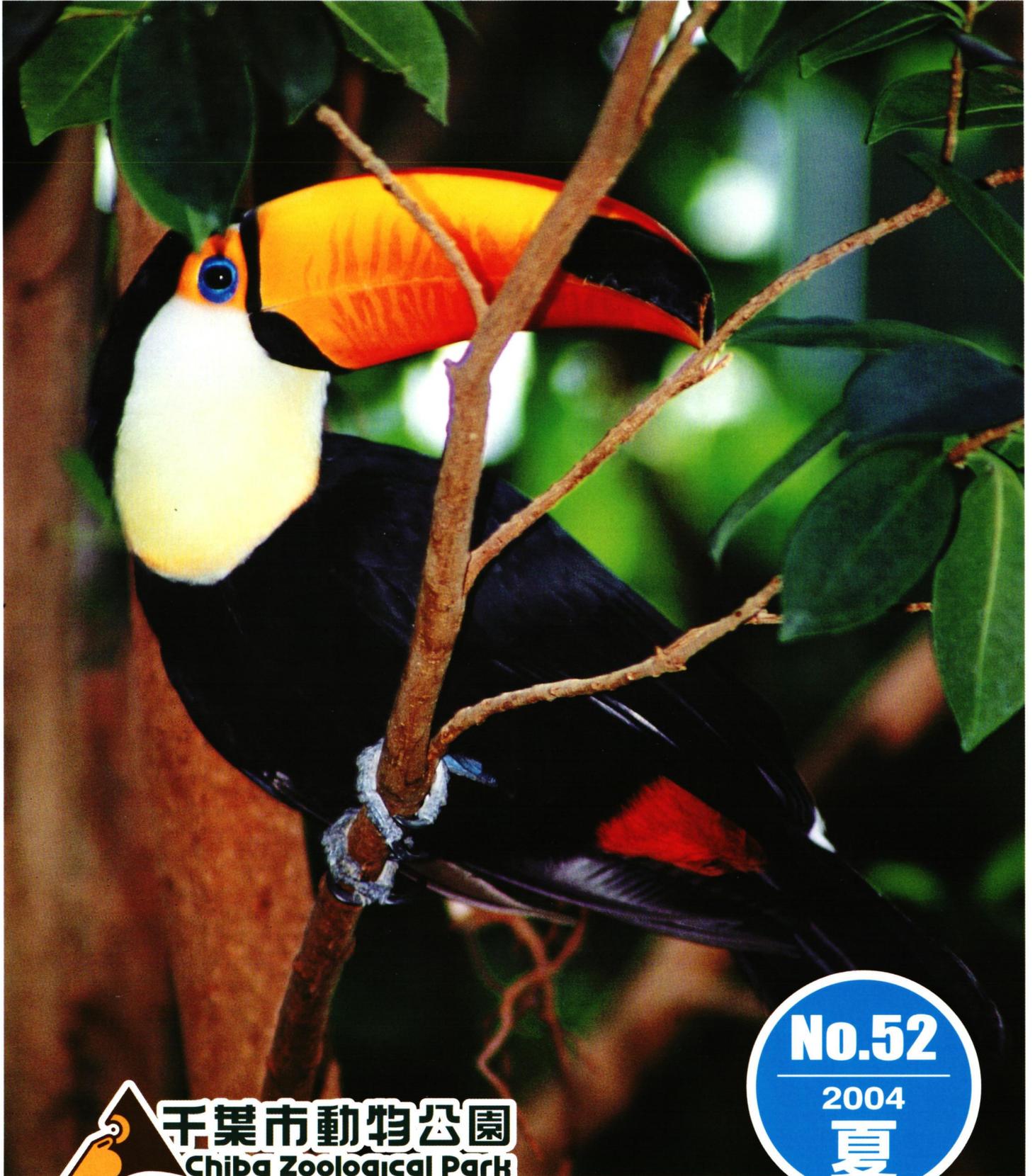


# どうぶつこうえんニュース



# Topics

トピックス

## レッサーパンダ (食肉目 アライグマ科)

このほど、静岡市立日本平動物園よりオスのレッサーパンダがやってきました。名前は、「風太(ふうた)」。名前のごとく、新しい環境にもすぐに慣れて活発に動き回っています。昨年の7月5日生まれで、まだ母親と一緒にいたい時期だと思うのですが、本人は「愛より食い気」。こちらの心配をよそに、与えた食べ物をあつという間にたいらげてしまうと、後足で立ち上がり、前足をドアにかけてさらに欲しがる動作をします。「風太」のシッポは、リング模様が4つほど少なく(普通は9つくらい)、短くなっています。日本平動物園の



担当の方によると、母親が生後2週齢の頃の風太を運ぼうとして、過ぎてしっぽを噛んで切れてしまったのではないかとのこと。

当園には、平成2年に来園したメスの「ハナ」がいますが、推定年齢14歳くらいで高齢のため、最近では放飼場で寝ている事が多く、たまに動いていると「今日は動いているところを見られて幸運でした」とおっしゃる方も。

これからは、「風太」が今までがんばってきたハナのかわりに、レッサーパンダの魅力を十分に披露してくれることでしょう。



レッサーパンダは、ヒマラヤ南東部、中国北西部の高山の森林や竹林に単独で住み、笹、タケノコに加えて、果実、昆虫、

ネズミやトカゲのような小動物も食べます。前足、後足ともに指は5本で、やや内側に引っ込める事ができる爪を持ち、上手に木に登って食べ物をとったり昼寝などをします。前足には、他の指と対向するように、特殊な突起(手首の骨の1つである種子骨が変化)があり、この突起と他の指を使って食物をつかんで口に運んで食べます。

佐藤 幹雄 (Mikio Sato)

## 目次

CONTENTS

表紙【オニオオハシ】	①
トピックス【レッサーパンダ】	②
子ども動物園 これが人気!	③
総合的な学習【動物とわたしたちの命】	④
連続講座のお知らせ	⑤
パードウィーク特別講演会	⑤
飼育よもやま話【キリン】	⑥
健康管理センターから	⑥
動物公園日誌から【'04.2/1~'04.4/30】	⑦
裏表紙【カオムラサキラングール】	⑧
Information	⑧

## 表紙の動物説明 オニオオハシ

オニオオハシは、キツツキの仲間でおオオハシ類中最大の鳥である。大きいものでは19cmもある見事なオレンジ色のくちばしを持つ。南アメリカの南東部から中部にかけての森林地帯、樹木の茂ったサバンナ、開けた田園地帯に分布している。鳥の体重を支えきれない細い小枝の先の果実等も大きいくちばしを利用してとることができる。動物公園では、しばらく展示を中止していましたが、動物科学館のシンボルマークになっていることもあり、展示を再開しました。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

## 動物飼育数

平成16年4月末現在の飼育数

Classified number of animals  
as of 30, Apr. 2004

哺乳類	66種	421点	両生類	1種	1点
鳥類	78種	145点	魚類	0種	0点
爬虫類	5種	22点	総計	150種	759点

# 子ども動物園 これが人気!

今回は、子ども動物園で人気のコーナーをご紹介します。  
 ゴールデンウィーク期間中、来園者の方にアンケートをとってみました。質問は次の2つ。

**その1** 子ども動物園のなかにある「飼育センター」の  
 展示コーナーで気に入ったものはどれですか？

**その2** 子ども動物園の解説看板で楽しかったのはどれ  
 ですか？

というものです。答えてくれたのは、86人のお友だちです。

まず、飼育センターの展示コーナーでは「動物の赤ちゃんくらべ」が第一位でした。以下、「足あとくらべ」「展示コーナー（リスやカメの説明）」「手作りのお話」「ビデオ」「お手紙コーナー」と続きます。

「動物の赤ちゃんくらべ」が第一位だったのは、カピバラやコウモリの赤ちゃんなどのレプリカが、実物大の大きさに展示されていることや、直接触れることができるというところに魅力を感じられたのだと思います。「足あとくらべ」もソウヤキリンなど、普段なかなか見ることのできない動物の足の裏の様子が、やはり実物大で展示されているところが好評のようです。自分の手足と比べっこしている所をよく見かけます。

次に、子ども動物園全体の展示のなかでは、「ウマやウシの看板」が第一位でした。以下、「ヤギとヒツジの広場のクイズ」「ペンギンの解説看板」「ヤギとヒツジのおそうじグッズ」「実物大インコの看板」と続きます。



実物大の「どうぶつの赤ちゃん」



実物大の「どうぶつのあしあと」



展示コーナー「もしもしカメさん」



クイズ式解説板「ウマのからだ」



ヤギとヒツジの広場「おそうじグッズ」

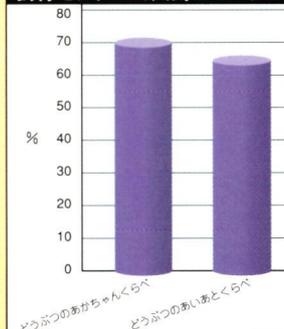
「ウマやウシの看板」や「ヤギとヒツジの広場のクイズ」には、来園者の方が自分で開け閉めできる、これまで当園の看板にはなかった手法がとられています。ウマやウシの蹄や糞の形、おなかの中の様子をパネルをめくって確認することができるところに魅力があったようです。

「ペンギンの解説看板」はこれまでほとんど情報のなかったフンボルトペンギンの野生の状況をお伝えしようとしたもので、多くの方々に読んでいただいているようでした。

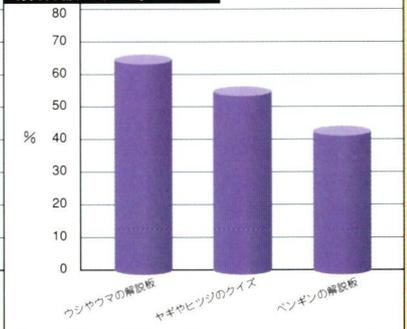
「ヤギとヒツジのおそうじグッズ」も人気の高いものでした。「ヤギとヒツジの広場」入り口に設置されているほうきとチリトリをもって広場の中へ入り、ウンチ掃除にチャレンジできるというものです。ちなみに、午前11時30分と午後2時からは「お食事タイム」があり、ヤギやヒツジに餌を与えることもできます。

みなさんも子ども動物園へ遊びにいらっやいませんが。

飼育センターで人気のコーナー



解説看板で人気のもの



# 『動物とわたしたちの命』

千葉市立源小学校 第4学年

学区に隣接した千葉市動物公園は、子供たちにとって、幼い頃からたくさんの動物と触れあった、思い出多い場所です。そこで、源小の4年生は、総合的な学習「わくわく学習」の時間を使い、さらにお気に入りの動物について、調査・観察を重ね、動物たちへの思いを深めてきました。

単元『動物とわたしたちの命』は、平成14年度からスタートしました。年間パスポートを使い、個々の課題を追求していく姿は、動物公園に出かけるたびに新しい発見や興味を生み出し、子供たちの関心・意欲は目を見張るほど成長してきました。ここでは、子供たちの活動の様子をおおまかに紹介いたします。



- 6月** 単元のめあてをつかみ、個々の動物への思いを整理し、テーマを決めました。
- 7月** 動物公園に行き、個々のテーマについての確認と見直しをおこないました。夏休み前の2回の現地調査は、その後の活動に大変重要であり、漠然と捕らえていた子やテーマが絞りきれなかった子には、大切な時間となりました。
- 8月** 夏休みを使った調べ学習は、2～4人グループ（各ゾーン中心）で計画をたてゆったりとした時間の中で、調査・観察を行い、様々な体験活動をしました。
- 9月** 動物公園の〇〇〇なら、任せてとばかりに、豆博士たちが育ってきました。
- 10月** 「みなもとフェスタ」に向けて、個人→グループのまとめに入りました。

- 11月** 「みなもとフェスタ」の発表。今までの学習を模造紙・絵本・クイズ・人形劇・詩などに工夫してまとめ、他学年・地域・保護者の方たちを招いて、発表会をしました。山極寿一先生や動物公園の職員の方々から、ゴリラの研究を通して、たくさんの事を教えていただき、大変参考になりました。
- 12月** 動物クイズを作って、ウォークラリーをしながら、公園内をまわりました。
- 1月** 『わたしたちの命』1/2成人を祝う会を通して、今までの成長を振り返り、10年後の自分への思いを一人一人タイムカプセルに詰め込みました。
- 3月** 動物公園「動物科学館」にて展示。



\* 動物科学館に展示された動物紹介 \*  
ポスターや手づくりの本



\* みんなで発表会 \*

# 連続講座のお知らせ

私たちの暮らしと動物のかかわりを様々な観点からみつめた企画です。今年のテーマは、「歴史の中の動物」。動物公園ならではのテーマです。④以外はすべて当日受付。1時半～動物科学館レクチャールームで行ないます。いずれも、その道の専門家が講演します。またとない絶好のこの機会にぜひご参加ください。

## ① 8月15日(日) 哺乳類の進化

講師：国立科学博物館 遠藤 秀紀 先生

私たち哺乳類の祖先はどのように生まれ、そして現在の姿まで進化してきたのか。実際の研究場面を交えてわかりやすく解説いたします。

## ② 9月5日(日) 野生動物保護の歴史

講師：野生生物保全論研究会(保全教育) 笠井 守 先生

気づかないだけで、身近なところで野生動物たちがどんどん絶滅の危機に瀕しています。いったいそれを食い止めるにはどのようなことが私たちにできるのか。皆で真剣に考えてみたいと思います。

## ③ 9月25日(日) 縄文時代の暮らしと動物

講師：千葉市加曾利貝塚博物館 村田 六郎太 先生

千葉市には縄文時代の貝塚が豊富に存在します。人々の暮らしの中で、野生動物とのかかわりはどのようなものだったのでしょうか。それを、出土した道具や動物たちの骨などから探ってみます。

## ④ 10月17日(日) 古代のウマ 埴輪づくりをとおして

講師：国立歴史民俗博物館 杉山 晋作 先生

**事前申込制です!**

日本に初めてやって来たウマを、古代の人々はどのように感じたのでしょうか。実際にウマの実物大埴輪をみんなで復元制作しながら考えてみましょう。窯を借りて焼成もします。この回だけ事前申込で、1日のプログラムとなります。小学3年生以上。定員は20名です。(応募者多数の場合抽選)受付は9月1日から。事前の講習もあります。

## ⑤ 11月13日(日) 江戸時代の暮らしと動物

講師：千葉市美術館 浅野 秀剛 先生

江戸時代の生活にどのように動物たちは受け入れられていたのでしょうか。名所絵などの絵画にみられる多彩で豊かな動物表現の世界をごいっしょに旅してみませんか。

## バードウィーク特別講演会が開催されました

5月10日からの愛鳥週間にちなみ、5月9日(日)動物科学館レクチャールームにおいて、「園内で見られる春の鳥」と題し、秦舜二園長による講演会を開催しました。

はじめに、ハシビロコウとフクロテナガザルの骨格標本を使い、鳥と哺乳類の違いの話し、次に「鳥は揚力により飛ぶことができる。」ということ、カラスの翼の標本と紙を使ってわかりやすく説明しました。その後、動物公園内で見ることのできる野鳥(約30種類)を映像により紹介し、ヒヨドリ、コゲラ、キジバトの巣、エナガの巣、メジロの巣等の様々な標本を用いて具体的な説明がありました。それぞれの特長、生態等をクイズを交えながら解説する参加型の講演であったため、参加された皆様の反応も近年の講演会になく好評でした。





## 飼育よもやま話

### キリン

あなたの周りにもいませんか？「神経質で大雑把」

キリンという動物は実に扱いづらい動物です。飼育係にとって、「扱いづらい動物」というのは程度の差こそあれいろいろあります。でも多くの場合、人間側の対応いかんでトラブルは最小限に防げる場合が多いでしょう。人間側ではどうにもできない動物というと、私はキリンを一番に推薦するでしょう。

キリンというと、「ゆったり」しているというイメージがあるかもしれませんが、そんなカワイイものではありません。一言で言うのなら「神経質で大雑把」というところ。何か少しでも気になると、意地でも動こうとしません。それは突然に「見慣れないものを見た」という場合もあるし、いつもより少し強い風で「木が揺れた」というだけで、突っつこうが、何をしようが動きやしません。それでは、ただ神経質なのかというと、そうでも無く、放飼場で飼育係が掃除をしている所へ、真っ直ぐに歩いて向かってきて、あわや踏まれそうになること度々。あまり足元には頓着せず進んでいく始末。あの高さから見下ろした人間なんて、たいした障害物では無いと言いたげ。そんな連中ですから夕方の舎内への收容も、直ぐに帰ってくることもあれば、通路の途中で30分立ち往生ということも……。せっかく部屋の前まで来たのに、何か気に入らなくて再び放飼場へ逆戻り、何ていうのは歴代の担当者はみんな経験していること。

そんな中、この春「婿入り」してきた幼い「マナトくん」は、キリン界のニュータイプという感があります。到着後、輸送箱から出たら、初めての部屋にもスタスタと入ってしまい。長期戦を覚悟で集まった飼育係を驚かせました。部屋と放飼場の行き来も一日でマスターし、同じ放飼場にいるシマウマには初対面でも物怖じせず近寄っていく（当のシマウマには「失礼なやつ」と思われて、叱られていました）大物ぶり。見方によれば「100%大雑把」という意見もありますが……。一方、嫁候補の「サツキ」はというと、未だに彼を遠巻きにして、鼻の穴をおっ広げたまま逃げて歩いています。

正統派キリンの「サツキ」と、新人類の「マナト」といった正反対の性格の2頭の恋の行方は……？物語としては面白そうですが、担当としては、自分この2頭に振り回される日々を覚悟しています。

清田 義昭 (Yoshiaki Kiyota)



(手前がマナト、うしろがサツキ)



## 健康管理センターから From the Animal Health Center

### 病院もリニューアル



当園も開園してから早くも20年を迎えようとしています。それに先がけ、子ども動物園が先年リニューアルオープンしました。皆さんの目にふれる事はありませんが、実は、動物病院もこの3月に大改修工事を終えたのです。

病院は、見た目も大きく、出来た当初は、当然全てが新しく進んでいるように思えました。しかし、この頃では建物、設備ともに手直ししてほしい箇所が目につくようになりました。例えば、馴化施設の屋外の檻などは動物の排泄物がかかりやすいためか、下のほうがすっかり錆びてちょっと力のある動物を入れたら倒されやしまいかと心配になるほど。また梅雨時は、とくに解剖室の冷蔵庫・冷凍庫の外壁が結露して廊下の床に水がたまったり、その冷凍庫がダウンして中のものが溶けて悲惨な事に……。もちろん、その時は修理してもらうのですが。今回は小手先でなく、しっかりと直そうという事で、昨年10月から半年をかけた大がかりな改修となりました。一部電気や水道も止めるので、病院の仕事も一部休業。入院や検疫、解剖など原則としてできなくなります。工事に備え、まずは病院内で邪魔になる物を移動、何とかスペースを作って引越させました。工事が始まり、時にはホコリや塗料の臭いに辟易し、冬場エアコンが使えず電気ストーブ等でのしご、解剖室の冷凍庫・冷蔵庫を取り去ったあとの結構大きい空間に驚いたりしつつ、工事期間は過ぎていきました。ほぼ開店休業状態の病院でしたが、この間動物たちも実に協力的で(?)、どうしても病院を使わないと、という事はほとんどありませんでした。

そして、3月も半ばには、完了しはじめました。解剖室も新しい冷凍庫・冷蔵庫が入り、それを見た時には本当に頼もしく思えました。馴化の檻も新しくなり、他にも多くの箇所が改修されました。こうして3月末には工事終了を待ってましたと、次々と動物が新しく入ってきて病院での検疫が再び始まり、4月にはまたいつもどおり動き始めました。

さて、今年は快適に過ごせるでしょうか？

辻村 直美 (Naomi Tsujimura)



# 動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

## '04年2月1日~'04年4月31日

- 2月5日 アジアゾウ、前肢第4指のツメ割れている
- 2月6日 ヘラサギ・ハワイガン抱卵
- 2月7日 フクロテナガザル、気温が低いので早めに収容
- 2月9日 パカ雄雌15:30まで同居
- 2月11日 子ども動物園のウマ、ロバ駆虫薬投与
- 2月15日 アジアゾウ、新担当に馴らすため日中ハイキューブを与える  
チリーフラミンゴ(雄)、死亡
- 2月17日 アジアゾウ、午後もボイストレーニングを始める  
フンボルトペンギン、産卵(1卵)
- 2月18日 カオムラサキラングール、ピグミーマーモセット繁殖
- 2月20日 オウギアイサ(雌)、行方不明
- 2月22日 ピグミーマーモセット、巣箱内で仔の死体発見
- 2月23日 ビーバー放飼場、ネコよけの網を張る
- 2月24日 クロザル(雌)、性皮膨らみ始める
- 2月25日 パタスザル、繁殖  
アカハシハジロ、死亡
- 2月26日 ヨシガモ(雄)、行方不明(ネコによる食害?)
- 2月27日 ハシビロコウ、1羽脱柵



- 2月28日 **パタスザルの昨年生まれの仔、放飼後よく鳴く**  
ベニハシガモ、死亡
- 2月29日 アビシニアコロボス、繁殖  
フンボルトペンギン、産卵(1卵)
- 3月1日 シタツンガ(雄1、雌1)、東武動物公園より搬入
- 3月3日 シタツンガ(雄)左前肢、地面につけない  
イヌワシ産卵確認(3卵)
- 3月8日 アミメキリン(雄)、東武動物公園より搬入
- 3月11日 ホウカザリツル、嘴の伸びすぎたところを切る  
ハワイガン、孵化(1羽)



- 3月14日 **「ワンポイントウォッチング」(チンチラ)**  
マレーバク、破傷風予防接種実施(1回目)
- 3月15日 シタツンガ、仮柵内に放飼する  
トナカイ(雌)、落角(右角:200g)
- 3月18日 ヘビクイイワシ、産卵(1卵)



- 3月21日 **zooクイズラリー**
- 3月22日 搬出予定のマーモセット類、マイクロチップを入れる
- 3月23日 ピグミーマーモセット(2頭)、シロガオマーモセット(2頭)、ワタボウシバンシエ(1頭)、搬出
- 3月25日 カリフォルニアアシカ(雌1頭)、糞中に寄生虫を発見
- 3月29日 ワタボウシバンシエ(1頭)  
アカコンゴウインコ(1羽)、搬出
- 3月30日 レッサーパンダ(1頭)、ニホンリス(1頭)、ゴールデンハムスター(10頭)、トモエガモ(2羽) 搬入



- 4月1日 **フンボルトペンギン、孵化(1羽)**
- 4月5日 フンボルトペンギン、孵化(1羽)  
コツメカワウソ、交尾
- 4月7日 ニシローランドゴリラ(モモコ)、風邪のため咳
- 4月9日 フンボルトペンギン、孵化(1羽)  
クロミミマーモセット、繁殖(1頭)
- 4月11日 マレーバク、破傷風予防接種実施(2回目)
- 4月12日 ホシハジロ(雄1頭)、食害で死亡  
オンドリ(雌1頭)、行方不明
- 4月13日 トナカイ(雄)、落角
- 4月14日 シタツンガ(雄)、東武動物公園に返却  
アカハナグマ(雌2頭)、東武動物公園に寄贈
- 4月15日 ホンドザル(雄1頭)、市原ゾウの国に寄贈
- 4月17日 アミメキリン(雄)、公開を始める  
シロミミキジ、骨折のため入院
- 4月18日 ショウガラゴ(1頭)、豊橋総合動植物園へ搬出
- 4月19日 ニホンリス、検疫明け  
オウギアイサ(雄1羽)、行方不明  
ビーバー池で展示しているオウギアイサ、ホシハジロ、食害の恐れがあるので室内に収容し展示中止  
マンドリル(雌)、退院  
アジアゾウ(雄)、雌の鼻を牙で押す
- 4月20日 コウラウン、孵化(2羽)  
コサンケイ、孵化(2羽)  
エンペラータマリン(雌1頭)、浜松市動物園より搬入  
ショウガラゴ(雄1、雌1)、豊橋総合動植物園より搬入
- 4月21日 トナカイ(雌)、右角落角  
ミーアキャット、動物舎内に巣箱を設置
- 4月22日 ホウカザリツル、枝を集めている。営巣か?
- 4月23日 ルリゴシボタンインコ、産卵(1卵)
- 4月25日 アカハナグマ、雄雌一緒に展示を再開
- 4月27日 レッサーパンダ、検疫明け

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)



カオムラサキラングール



## Information

### 平成16年7月・8月・9月の 催し物一覧

- ★ 7月4日(日) バルーンアートショー
  - ★ 7月21日(水)・22日(木)・23日(金)  
サマースクール(事前申込制)
  - ★ 8月28日(土) ZOOキッズデー(事前申込制)
  - ★ 9月12日(日) ワンポイントウォッチング(ゾウガメ)
- 夏休みは、毎日動物映画・クラフト教室・科学館の動物ガイドツアーがあります。  
(※イベントは変更になる場合があります。)